

市民公開学習会

福島原発事故『東電会見』に通り続ける寄席芸人

情報開示と監視の目

屋内も高い追加被ばく線量

公害環境対策部は10月11日「福島第一原発事故『東電記者会見』に1500回以上通う寄席芸人の取材報告―ハミガキするように社会のことを考えよう―」をテーマに市民公開学習会を開催。芸人で記者のおしどりマコ氏・ケン氏が講演し、54名（うちWEB参加36名）が参加した。

「現状が世の中に伝わればもう少しマシになる」とマコ氏は切り出し、人々の思考・議論の基礎となる情報開示の重要性を強調。福島に住民生活の妨げを繰り返している現状を、一点張りの主張を繰り返すことで、汚染を心配する方々を「風評加害者」とレッテルを貼って口を封じていると批判した。



講師のマコ氏



講師のケン氏

マコ・ケン両氏の取材活動は、報道と現場との乖離を感じたことから始まった。報道では福島原発事故後「ただちに影響はない」とされる一方で、テレビ関係者は一斉に東京から去ったからだ。マコ氏は取材を続ける中で、テレビ朝日・報道ステーションのディレクターから謝罪を受けたと紹介。「日本の報道関係者は厳しい質問が続く一方

が一生背負っていかねばならない十字架だと思っています」と明かしたとし、東京駅から新幹線等で脱出する人波を多数のテレビ局が撮っていたが、放映はしなかったのだとした。事故後の放射線量数値が明らかでなかった頃、いち早く異変に気付いたのは福島で、福島会場の記者は同時中継中でも東京会場の質問が始まると帰る始末の状況だを紹介。こうした中、東京電力は東京の記者会見場を閉じたが、福島第一原発作業員3カ月の40代男性が作業後に「心臓突然死」したこと、被ばく線量が突出して高い1号機原子炉建屋設置工事の作業者がたつことからマコ氏

INWORKSはぜひ確認を

東電記者会見への記者の参加人数について、2011年当時は毎回2000名超が集まっていたが今は5、6人だと報告。人事異動等から、事故当時からの関係者には通い続けるのは報道ステーションのディレクターから謝罪を受けたと紹介。「日本の報道関係者は厳しい質問が続く一方

激動の一年であった。昨年の衆院選で自民党は歴史的な大敗を喫し、少数与党政権となった。今年7月の参院選でもその流れは変わらず、社会保障への理解不足が目立つ新興政党が議席を伸ばさせた。10月の自民党総裁選では高市早苗氏が選出され、歴代初の女性首相の新政権が発足。所信表明演説で医療機関の窮状の救済を高く位置づけた。予算委員会での、病院だけでなく「診療所も含める」との発言に期待したい。

主張

ゆく年くる年

医療界の現状は深刻だ。近年は人件費や光熱費、材料費等が高騰。そもそも診療報酬は20年以

き彫りにした。近年最多の会員署名数が集まったとおり、「まさに崖っぷち」「クリニックが突然なくなるかもしれない」のである。

診療所が診療報酬引き下げの標的とされた。だが政策部長談話等で指摘したとおり、医療法人立と個人立診療所の経営状況はいずれも厳しい。10月には保団連関東ブロック協議会が診療報酬引き上げを訴える緊急決起集会

を行い、9協会による経営実態調査の結果を報告。内科で前年度比2割の減益が示されるなど、窮状を裏付けた。地域医療を守るには医療費総枠の拡大が不可欠である。学術部による糖

報酬の引き上げによる窓口負担の増加という二律背反を解消する取り組み、医療費の窓口負担「ゼロの会」は全国に広がりつつある。6月には兵庫協会主催のオンラインイベント、10月には医療・健康フェスティバルを開催し、市民へその意義を周知した。他方で「保険医の生活と権利を守り、国民医療の向上をめざす」ための課題は山積している。高額療養費については高齢者の「外来特例」の上限見直し等の基本方針が了承され、患者負担の増加影に日向に人々を支えることが見込まれる。OTC類似薬の自己負担増は選定療養の仕組みを利用し、心して活動を行っていき

横浜支部研究会
診断困難な化学物質過敏症
QEESI問診が診断の鍵



講師の坂部氏

横浜支部は11月10日、東海大学名誉教授の坂部貢氏を講師に招き、「化学物質過敏症・香害の理解と診療のヒント／病態・診断・社会的背景」をテーマに研究会を開催。協会会議室・WEBあわせて47名が参加した。

氏は化学物質過敏症について、脳の認知や記憶、マイクロカプセル（イソシアネート類）へのアレルギー、精神疾患との合併など、様々な要因が重なり診断が困難だと指摘。また、多剤薬剤過敏症（アレルギー免疫機序）と混同するケースが臨床現場で往々に見られるが、化学物質過敏症は中枢性感作であり、明確に違うものだと強調した。

化学物質過敏を主訴とする多くの疾患カテゴリーの集まりだと考えることが臨牀的に重要だとした。その上で、近年では初診時のQEESIによる問診が診断の鍵だと説いた。

活動報告

quick reports

このほか、WHOの国際がん研究機関が主導した調査「INWORKS (International Nuclear Workers Study)」に言及。▽50mSv-100mSv、20mSv-100mSvでもリスク増加が認められる、▽直線モデルの裏付け、▽低線量の国の反応関係の傾きが急であることを示唆し、ぜひ確認してほしいとした。

農家への被ばく対策を考えるべき

農家の方々は自分たちの被ばくに不安を抱えていると、認定件数に比べて申請件数が多い「狭き門」とマコ氏は喝破。しかし放射線区域域内の労働者を守る電離則（電離放射線障害防止規則）では自営業の農家は対象外。そのような中、5年後に原疾患データを「避難解除が始まれば、戻ってきた人の中で一番被ばくするのは、また農民になるから」とした。

また、自主返還金額については、歯科新規個別指導では57件で79万5千838円（同114・9万円）で、前年度36件3万6千471円（同110・3万円）を上回っている。個別指導では、主にカルテとレセプトを突き合わせ、診療報酬請求の根拠と

小笠原敏夫先生を悼む

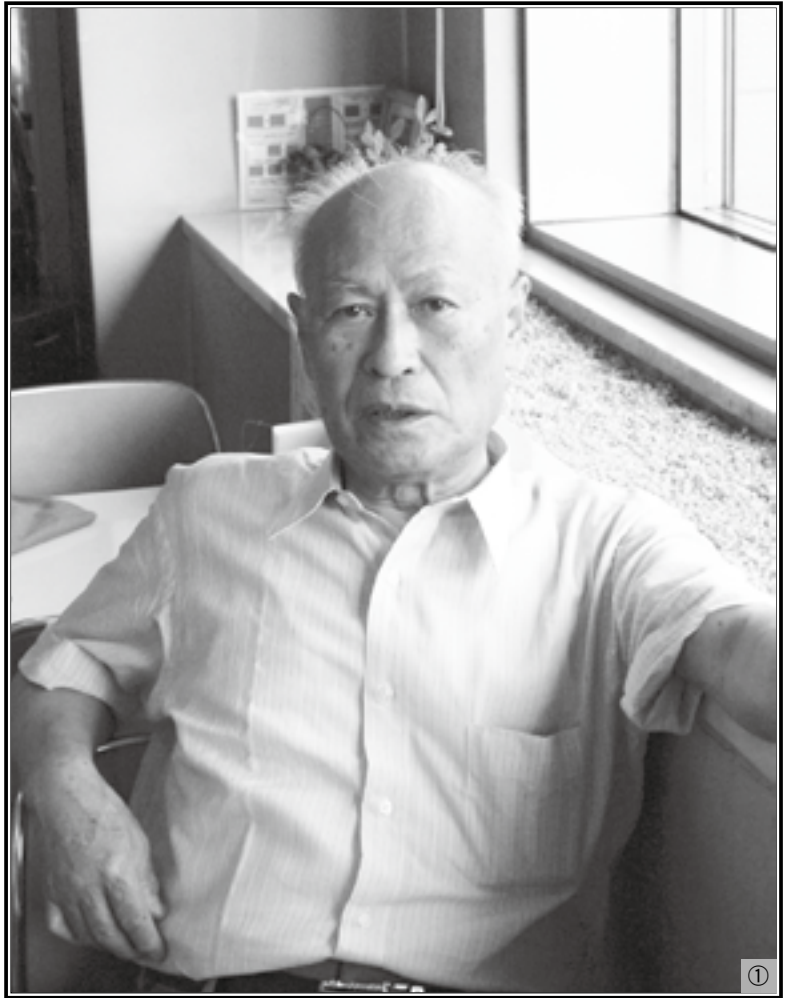
会員のために できることを 常に考え行動する

今年9月21日、長年にわたり保険医運動と協会の発展、特に協会歯科部会の創設期から歯科会員2千名超の発展とともに歩み、協会活動に一生を捧げた小笠原敏夫先生（横浜市緑区・歯科）が永眠されました。享年96歳。

歯科の差額問題から低診療報酬問題の改善運動、歯科会員の世話役、社会保障論に基づく保険医運動の理念と使命など、穏やかに、時に力強く、江戸っ子調で語られる姿は、今も多くの協会会員が思い出されることでしょう。

「歯科部会員として、協会理事、監事の一人として、会員のためにできることを常に考え、行動することを第一にしてきました。入会から今日まで、この考えはいささかなりとも揺らいだことはありません」——協会60年史の発刊によせて小笠原先生が語られた一文です。

小笠原先生の生前のご尽力に深く感謝するとともに、先生の安らかなるご冥福をお祈りいたします。



①

小笠原敏夫先生を偲んで

理事長 田辺 由紀夫

私が理事として理事会等
の会議に出席するようにな
った頃、小笠原先生はすで
に監事となられ、理事会で
の議論を俯瞰して発言する
立場でいらした。理事会で
の議論が盛り上がりがないと
きは、発破をかけるべく
鋭い言葉を発せられるこ
ともあったと記憶してい
る。

私が理事として理事会等
された年だ。その後、理事、
副理事長、監事と役員を務
められた先生の歩みは、協
会歯科活動のみならず医科
歯科一体の協会活動の歴史
そのものと言っても過言で
はない。2010年には理
事長として理事

その後、先生の遺志を私
たちが引き継ぎ、会員をは
じめとして保険医の置かれ
た環境の改善に向け、運動
を進めていかなければなら
ないとの機にあらためて
心に誓う。

年の離れた同志

保団連副会長 宇佐美 宏

先生が神奈川県保険医協
会に入会された1970年
は、協会に歯科部会が創設

小笠原先生の訃報に
接したときは、驚きを
御高齢であることは十
分承知していましたが、
が、集会等で逢う度に
「おお、宇佐美元気か。」
と言って握手してくれ
たあのごつい手の力強
さと先生の死とがなか
なな結びつかなかった
からです。

私と先生とは、日本
大学の同窓で、後輩の
私をよく気遣ってくれ
ました。同窓とはいっ
ても一廻り近く年齢が
違つので、先生の大学
時代での御様子は存知
合は、玉川会長（当
時）のお膝元である大
阪で、月一の開催でし
た。そこでの歯科固有
の課題についての議論
では、先生による国民
皆保険制度以前の実体
経験に基づくお話が大変
参考になったことを記
憶しています。又、そ
の前後の飲み会でも大
いに盛り上がり、会議
中とは違った先生の柔
和なお顔に接すること
ができたことも良い思
い出です。

はじめて先生と
接触したのは、保
団連の「歯科協議
会」であったと記
憶しています。四
十年以上のお付き
合ひ、ということ
になります。まさ
に光陰矢の如しで
すね。「歯科協議



②



③

社会保障の理念 熱く語る声

運動への活力 鮮明に

元副理事長 高橋 健作

小笠原先生のご逝去の報に接し、深い悲しみと衝撃を禁じ得ません。

私が開業したばかりで不安な日々を過ごしていた折、協会に入会し、初めて歯科部会に参加した際、温厚にして保険医運動に情熱を傾けられる先生のお姿に、心よりの敬意を抱いたことを今も鮮明に記憶しております。

当時、先生は既に歯科部会長と

を患われましたが、その気力・体力は少しも衰えることなく、むしろ一層のご活躍をなさっていたことに、ただただ驚嘆するばかりでした。弱音を吐かれることは一度もなく、常に前向きな姿勢を貫か

れていたと記憶しております。先生のエネルギーは常に保険医運動に向けられ、またその活動が先生に力を与えていたのではないかと拝察いたします。十数年前には、私の診療所までお越しいた

小笠原先生への感謝

監事 田中 敏章

小笠原先生が逝った。96才と高齢であったが、この先生だけは元氣な先生で、私たち歯科の会員を導いてくれた。協会の草創期から保険医運動の先頭に立ち、協会の役員としても会員のためにできることを常に考え、行動すること

おい、おまえ…

小笠原先生との30年

横浜支部長 洞澤 繁

「おい、おまえ、中区のおまえ…」小笠原先生は長い間、私のことを、そう呼んでいた。

平成になったばかりに開業した私は歯科医師会に当たり前のように入会し、すぐ広報委員を任され

歯科医師会の真面目な「信者」であった。そしていつの間にか保険医協会に入り、いつの間にか歯科部会の一員になっていた。当時の歯科部会は、つわもの揃

いで、中でも小笠原先生は別格の存在であった。

厳しい意見を投げかける先生との討論は、午後10時を過ぎても終わる気配が無い時もあった。

診療と部会でクタクタになった私は、小笠原先生率いる軍団に引

が、今、その年齢になった私が痛感するのは超人的な、そのパワーとバイタリティーであり、到底まねのできない行動力である。

そして、いつも新聞を隅々まで読み込み、自分なりに解説するチカラは80代後半でも衰えることはなかった。



⑤



④



⑥

故 小笠原先生の協会ご略歴
1975年 理事就任
1979年 副理事長就任
1999年 監事就任
2015年 顧問就任
*この他、歯科部会長、保団連参与等を歴任。

【写真】
①国会行動、②保団連・関東ブロック協議会大会代表懇親交流会、③75歳以上の医療費2倍化反対！6.21スタート県民集会、④国会行動、⑤宣伝行動、⑥いのちまもる総行動、⑦理事学習会、⑧いのちまもる総行動、⑨、⑩医療・健康フェスティバル (⑨は洞澤氏撮影)



⑨



⑦



⑧



⑩

会員限定の共済制度を ぜひご利用ください！

より多くの先生方に医師・歯科医師が抱える「リスク」へ備えていただくために、保険医協会では会員のための共済制度を用意している。助け合いの共済制度は加入者が増えるほど、スケールメリットによって保険料や手数料の引き下げに繋げることもできる。

＜冬普及活動期間＞
2026年1月5日～2月28日
（参加保険会社…大樹生命／明治安田生命／富国生命）

・普及期間中は保険医協会の共済制度のみご案内いたします。特定の会社の商品を案内することはありません。



はら せら
お問 合
こち せ

ご不明な点等ございましたら、共済部（TEL 045-3132111）までお問合せください。左記QRコードからメール問合せも可能です。

集めているようだが、そのとを心がけている。それが相手の安心感と信頼につながる。（F生命職員）

保険会社の皆様のごしただけの心かげは、私たちが臨床医が常に患者さんに抱く気持ちや姿勢に等しいと感じた。協会事務局の皆さんも私たち会員に対して同

安心のために 万一の備えを

リスクを抱えながら、患者さんの健康と安心のために仕事をしている。安心して働き続け、家族や医療機関を守るためには、万が一の備えが重要である。お気軽に協会へご相談いただき、リスクに備えるために共済制度をご活用いただきたい。

（取材…
当会副理事長・千葉英子）

安心と信頼への架け橋

共済制度普及優秀表彰者インタビュー

先日、当会共済制度の普及に携わっていただいている生命保険会社の職員から話を聞く機会があり、共済制度の利点のみならず、対人関係における気付きも多く、学び深かった。

保険会社の職員は、日頃から当会の制度以外にも数々の保険商品を扱っているが、「保険のプロ」から見ても当会の制度には多くのメリットがあるという。以下は実際に伺った内容である。「保険医協会の共済制度はとも魅力である。まず、グループ保険では保険料が安く、年に一度は保険料が安くなる。さらに、他

配当金が還元される楽しみもある。そして、休業保障保険では、保険料が加入時のまま上がり、掛け捨てではなく、また、入院・自宅療養・代診を置いても給付対象となる。さらに、他

では、協会より3月以降は医療機関が次年度改定の対応に着手するとして、手続きの簡素化と迅速な補助金支給を要請。県は現状の見通しとして、25年度内の執行は当然だが全てへの対応は困難かもしれないと回答。早期支給が可能な電子申請なども活用し、支給できる医療機関から順次、迅速に対応したいとした。併せて、手続きの簡素化は県の裁量の部分であり、可能な限り実施したいと応じた。

最後に、協会と県が情報交換・連携を図りながら、補助金が円滑に支給されるよう協力することを交わした。

26年度診療報酬改定の改定率を巡り、厚労省と財務省との攻防が激化する最中、当会会員（理事・政策部長）の磯崎哲男氏のユニークな取り組みが医療界で話題を呼んでいる。

11月28日午前10時30分、磯崎氏が院長を務める小磯診療所（横須賀市）と県内系列9診療所の医師11名は、財務省の強引な医療費抑制や診療報酬引き下げ要求への抗議として「1分間ストライキ」と称してはいる

とを心がけている。それが相手の安心感と信頼につながる。（F生命職員）

「協会に相談すれば、請求手続きが滞ることがないことは特にありがたがられる」（T生命職員）

別の職員によれば、昨今の保障内容が幅広い商品や貯蓄性のある保険が二重を



登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

登録証明証イメージ (名刺サイズ)

25年度補正予算 補助金の早期支給に向け、 県と情報連携を約束 県担当課と懇談



右から藤田理事・湯浅副理事長

医療運動部会は12月3日に県庁で、2025年度補正予算における医療機関への補助金支給に関して、県医療整備・人材課と懇談した。協会から湯浅副理事長・藤田理事が出席し、県から

今懇談では、11月28日に閣議決定された25年度補正予算を受け、今後医療機関への支給が予定される補助金（賞金分15万円、物価分17万円）について意見交換。協会からは①補正予算以外で県独自の補助金支給、②補助金支給に要件（例…ベースアップ評価料の届出）を付けないこと、③煩雑な手続きを省き、迅速に補助金を支給すること―を要請。湯浅副理事長は現在の医療機関の窮状とともに、地域医療は診療所と病

院が連携することで支えていると説明。補正予算では不十分な面もあり、県独自の補助金支給を要請した。また藤田理事は、申請要件を満たさないことや、給与原資不足等で診療所の4割しかベースアップ評価料を届け出ることができていないため、全ての診療所を対象とするよう求めた。

これに県は、診療所の窮状に理解を示すも、県独自の補助金は現時点では難しいと回答。支給対象も、今後の国からの通知等で規定された場合、県は従わざるを得ないとした。

補助金の迅速支給の要請

では、協会より3月以降は医療機関が次年度改定の対応に着手するとして、手続きの簡素化と迅速な補助金支給を要請。県は現状の見通しとして、25年度内の執行は当然だが全てへの対応は困難かもしれないと回答。早期支給が可能な電子申請なども活用し、支給できる医療機関から順次、迅速に対応したいとした。併せて、手続きの簡素化は県の裁量の部分であり、可能な限り実施したいと応じた。

最後に、協会と県が情報交換・連携を図りながら、補助金が円滑に支給されるよう協力することを交わした。

26年度診療報酬改定の改定率を巡り、厚労省と財務省との攻防が激化する最中、当会会員（理事・政策部長）の磯崎哲男氏のユニークな取り組みが医療界で話題を呼んでいる。

11月28日午前10時30分、磯崎氏が院長を務める小磯診療所（横須賀市）と県内系列9診療所の医師11名は、財務省の強引な医療費抑制や診療報酬引き下げ要求への抗議として「1分間ストライキ」と称してはいる

とを心がけている。それが相手の安心感と信頼につながる。（F生命職員）

草の根の患者周知行動に賛同多数 協会も支持

磯崎院長ら「1分間スト」が話題に

度重なる財務省の医療費抑制に抗議



（小磯診療所より提供）

が、実態は待合室での患者さんへの周知行動である。当初は1分間を予定していたが、実際には3分間の診療が、財務省が財政審分科会で公表した見解を載せ、「このストライキを通じて草の根でミクロに実情を伝える」と語っている。

この行動は医療系情報サイト「med.com」で報道され、医師専用サイトには全国各地から賛同コメントが寄せられている。また、地域紙のタウンニュース（横須賀・三

浦版）でも報じられた。磯崎氏らの今回の行動は、患者負担増などの改善に反対することへの理解と賛同を世論に広げるための重要な取り組みであり、協会として全面的に支持したい。

今回、磯崎氏の厚意により自作のチラシをご提供いただいた。会員諸氏には積極的にタウンロードしていただき、独自のスタイルで構わないので患者周知にご活用いただきたい。



ダウンロードはこちら



12.3&12.4
国会行動

「大幅プラス改定を」

年内最後の議員要請

協会は12月3日と4日の両日に国会行動を実施し、湯浅・二村両副理事長、藤田・小柳両理事が参加した。2日間で4名の議員と懇談。国会の会期末が迫るなか、年内最後の議員要請となった。会員から集約した「地域の医療機関を守るため、緊急財政措置と診療報酬の大幅引き上げを求める医師・歯科医師要請署名」(以下、「診療報酬引き上げを求める」署名) 1千388筆を懇談議員・秘書のほか、内閣総理大臣・厚生労働大臣・財務大臣に提出した。

今回の要請内容は次の通料を中心に10%以上の大幅から除外しないこと、及び患
り。①2026年度診療報酬引き上げを行うこと、②「O者」に追加負担を求めないこ
酬改定において、基本診療T C類似薬」を保険適用か と、③従来の健康保険証を



笠議員



山崎議員



篠原議員



大塚議員

医療崩壊阻止に
向け取り組む姿勢
笠浩史議員

笠浩史議員(衆・立憲)

の懇談では、会員から寄せられた「診療報酬引き上げを求める」署名の意見をもち、医療機関経営の実情を説明。また、協会の共済事業である保険医年金を例として、解約の問合せが例年より多いことから、資金繰りが厳しくなっているとも考えられるとした。笠議員は「医療崩壊しないよう、党をあげて取り組んでいく」とし、来年度予算等診療報酬も含め、維新との連立政権となった影響がどのように出てくるか注視が必要であるとした。

保険診療以外の
開業医の役割に理解
山崎誠議員

山崎誠議員(衆・立憲)

との懇談では、湯浅副理事長より地域における開業医

診療所経営にも
きちんとした手当
が必要
篠原豪議員

篠原豪議員(衆・立憲)

は医療機関の経営について、地域医療を支える診療所が経営のやり繰りに苦慮している点は理解しているとした。また11月28日に閣議決定した医療機関への補助金支給で不十分な場合

高い平均で引き下げ
介護と同じ構図
大塚小百合議員

大塚小百合議員(衆・立憲)

との懇談では、協会が

ら実調における医科・個人立無床診療の「損益差額」の平均は2千656万円だが、最損損益差額階級の「損益差額」はわずか749万円と説明。また「損益差額」がそのまま院長報酬ではない点にも触れ、次年度改定

中西健治議員秘書
中西健治議員(衆・自民)
秘書・富田氏は、政府が閣

保団連 要請行動
署名1.8万筆提出

保団連は12月4日、「診療報酬引き上げを求める財務省・厚生労働省要請を実施。財務省・厚生労働省からは担当者4名が対応した。当日は全国から集まった「診療報酬引き上げを求める」署名1万8千72筆(神奈川県分1千388筆)を提出した。併せて議員は、相模原市緑区では診療所やケアマネの不足等により居住困難な地域が出てきているとし、早急な対応・改善の必要性を訴えた。協会でを行った経営実態調査の結果を例に、「内科の落ち込みが特に厳しい。個

費用が嵩む(ネットワーク月額利用料が発生)上に、オンライン請求できる期間も5日~10日までと短く、しかも24時間送信できるわけでもないというところに私は不便を感じる。病氣や年齢以外の理由で泣く泣く閉院せざるを得ない医療機関が多いのであれば、国が対策を講じないといけないのではないだろうか。特に地方から医療機関が消えれば、人も都市部に流出し、地方から人がいなくなると危惧している。少子高齢化と物価高騰が進む大変な時勢ではあるが、それでも今後一保険医療機関が存続維持できるようにしたい。閉院する医療機関が増えないようにしてもらいたい。これからも診療を続ける医療従事者のために、保険医協会から国に強く要望してもらいたい。

本当はもっと診療したかった…

30年以上続けてきた

歯科医院の閉院を決意

小田原市 歯科医院(匿名希望)

高騰と医療
物価

パラジウムの市場価格は、30年以上前に開業した時と比べて大きく跳ね上がっている。にもかかわらず、保険点数の上がり幅は実売価格に追いつかない。診療報酬が殆ど上がらないので、技工所に支払う技工料も上げられない。

保険診療上必要で行っていることが評価されない、どこか点数表から削除されたものすらある。歯肉患肉除去は、昔は算定できたが、現在は基本診療料に包括されて算定することができない。手術そのものが基本診

保険医療機関の 存続維持に関わる問題だ

2024年度診療報酬改定で

は、医療従事者の賃上げを促進するためと「ベースアップ評価料」が導入されたが、そもそも当院は収入が少ないので常勤の職員を雇うことができず、非常勤の歯科助手を1名雇うのが精一杯。煩雑な施設基準の届出を

医療費を上げてほしい。物価の高騰の煽りが酷いというのに、診療報酬改定、随時改定での点数の上げ幅があまりに小さすぎると思う。それから問題は物価高騰だけではない。国が押し進める医療DXに保険証の新規発

行の停止。歯科医師も患者も新しいシステムについていくのは大変だ。顔認証カードリーダーを急ぎすぎたのではないだろうか。オンライン請求の原則義務化に伴って当院も光ディスク請求からオンライン請求に切り替えたが、光ディスク請求に比べると

●(黒丸) になって読めなかったり、一部負担割合が実態とは異なっていたケースもある。システムが未熟なのに、国は顔認証カードリーダーの導入を急ぎすぎたのではないだろうか。オンライン請求の原則義務化に伴って当院も光ディスク請求からオンライン請求に切り替えたが、光ディスク請求に比べると

近年最高の協力率

署名へのご協力、ありがとうございました

9月末から12月初めまでご協力いただいた、「診療報酬引き上げを求める」署名は、最終的に1,388筆が集まりました。協力率は21.3%と、近年では最高となりました。

当該署名は、今臨時国会において、国会議員22名(秘書含む)に提出。また内閣府や厚生省・事務次官、財務省・主計局次長に直接手渡しました。懇談時には、「良心的に診療してきたが、もう限界」「職員の給料を上げられず、優秀な人材が他業種へ流れて倒産の危機です」「地域医療は崩壊せよと、国から言われている気がする」など会員からの悲痛な声を紹介。医療機関の窮状を伝え、診療報酬の大幅引き上げを訴えました。

この間の会員の先生方の署名協力、誠にありがとうございました。

協会行事予定

1月6日
～1月16日

1月6日(火)
公書環境対策部会19時。
1月7日(水)
地域医療対策部会19時30分。
1月8日(木)
労務管理基礎講座14時。
歯科臨床研究会19時。
1月9日(金)
新聞部会19時30分。保険
診療対策部会20時。相模
原支部幹事会20時。
1月13日(火)
湘南支部幹事会19時30分。
1月14日(水)
共済セミナー19時30分。
学術部会19時30分。県央
支部幹事会20時。
1月15日(木)
労務管理基礎講座14時。
歯科保険診療対策部会19
時。共済部会19時30分。
1月16日(金)
新聞編集会議19時。

保険点数Q&A

【医科】
(Q)小児科における年末年始の点数の取り扱いを教えてください。
(A)本来、休日加算は日曜日・祝日・12月29日～1月3日であって、休診日もしくは診療日の診療時間外にしか算定できません(救急診療所や救急医療対策事業の一環として位置づけられた医療機関等を除く)。ただし、小児科を標榜する医療機関が6歳未満の乳幼児を診察した際は、小児科特例により診療時間内にも休日加算が算定できます(深夜を除く)。具体的な点数は、出来高算定の場合は初診時365点・再診時260点、小児科外来診療料や小児かかりつけ診療料を算定する場合は初診時250点・再診時190点となります。なお6歳以上の患者を診察した際は、診療時間外には休日加算等を算定できません。

【歯科】
(Q)エナメル質初期う蝕しか算定できません(救急診療所や救急医療対策事業の一環として位置づけられた医療機関等を除く)。た

だし、小児科を標榜する医療機関が6歳未満の乳幼児を診察した際は、小児科特例により診療時間内にも休日加算が算定できます(深夜を除く)。具体的な点数は、出来高算定の場合は初診時365点・再診時260点、小児科外来診療料や小児かかりつけ診療料を算定する場合は初診時250点・再診時190点となります。なお6歳以上の患者を診察した際は、診療時間外には休日加算等を算定できません。

【補報】
ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
◎荻野 貞雄氏
(川崎市川崎区)
11月15日、ご逝去されました。享年65歳。

ランニング同好会

雨のハーフマラソンを 105分で完走 多摩川リレーマラソン



中央：木村会長、右側：濱名理事

参加記

スピード維持 大作戦発令！

厚木市 木村 聡

ランニング同好会は11月9日、秋の練習会として位置つけた多摩川リレーマラソンに木村会長と濱名理事の2名と事務局2名で参加した。当日は気温も低く、あいにくの雨模様であったものの、スタート時刻には雨脚も弱まり、ランナーにとっては走りやすい状況と

なった。順番を待つメンバーも近隣のランニングステーションで暖を取りながら待機。1周1.3kmあまりを計16周するレースでは、ハーフマラソンの距離を1時間45分で走破し、出場全チーム中8位の成績を収めた。

今回の駅伝、前半は私と濱名先生が一周1.3kmの周回コースを一周ずつ交互に走り、1人5周、二人で合計10周です。後半の6周は事務局の園田さんと勝亦さんが3周ずつ通して走るというオーダーで臨みまし

た。前回4月のこの大会では、ある作戦で順位はほぼ中位に入りました。その作戦とは1人一周で交代し、疲労によるスピード低下を防ぐ作戦です。それにより、その前の大会の順位より飛躍的に上がりました。さて、今回の天気は雨で少し肌寒い天候です。私は第一走者としてスタートを切りました。他チームの第二走者は結構それなりの

アジ釣り大会

悪天候の中、 果敢にチャレンジ

文化部は11月9日、逗子市小坪港「椿丸」の2艘でアジ釣りを開催し、22名が参加した。当日は小雨が降る悪天候の中、各参加者が果敢にアジ釣りに挑戦。本命アジの釣果が伸びず、厳しい一日となったが、アマタイやサバなども多く釣れ釣果はまずまず。初心者や親子連れの参加も多く、終始和やかに釣りを楽しんだ。トップ賞は35センチのアジを見事釣り上げた、まごころ歯科の高橋誠史先生が獲得。参加者からは「初めての船釣りでも楽しかった」、「今度はアジを釣りたい」などの声が寄せられた。以下、参加者から感想が届いたので掲載する。

参加記

雨にも負けず、 息子と久々の釣りを満喫

横須賀市 高橋 誠史

「アジ釣り大会」を開催し、22名が参加した。当日は小雨が降る悪天候の中、各参加者が果敢にアジ釣りに挑戦。本命アジの釣果が伸びず、厳しい一日となったが、アマタイやサバなども多く釣れ釣果はまずまず。初心者や親子連れの参加も多く、終始和やかに釣りを楽しんだ。トップ賞は35センチのアジを見事釣り上げた、まごころ歯科の高橋誠史先生が獲得。参加者からは「初めての船釣りでも楽しかった」、「今度はアジを釣りたい」などの声

が寄せられた。以下、参加者から感想が届いたので掲載する。

上げた、まごころ歯科の高橋誠史先生が獲得。参加者からは「初めての船釣りでも楽しかった」、「今度はアジを釣りたい」などの声

が寄せられた。以下、参加者から感想が届いたので掲載する。

訂正とお詫び

1週間前から準備。しかし、当日は生憎朝から雨模様。しかも

あたりがぼつぼつと出始めた。

自分と息子は船のみよし(船の先端だったためか、なかなかあたりが来ず焦っている)と反対側のみよしからあたり始め、息子を鼓舞したらイトヨリダイをゲット！坊主になら



保険医新聞12月15号3・4面政策部長談話「診療所(個人立)も経営悪化顕著(参考)中の表タイトルに誤りがありましたので訂正いたします。◆診療所(個人の3割は損益率が赤字、損益差額が勤務医給与水準以下は7割弱」とありますが、正しくは「5・6割は損益差額」、「4割弱です。お詫び申し上げます。

今年の重大ニュース

神奈川県保険医協会は今年も、開業保険医の経営・権利を守り、国民医療の向上をめざして、活動を行ってきました。協会活動の「重大ニュース」と題して、この一年を振り返ります。

物価高騰・人件費増の中でも低点数 大幅プラス改定は必須

20年以上の実質マイナス改定に加えて、近年の物価高騰により医療機関の経営は危機的状況だ。「骨太の方針2025」には「コストカット型からの転換」や「力強い賃上げ」、「経営の安定」が明記された。経済・物価動向を踏まえて「加算する」等の文言も記載されたものの、秋の財政審にて診療所が診療報酬引き下げの標的となった。次期診療報酬改定での大幅プラスを勝ち取るため、協会は様々な活動を展開した。

——次期改定「大幅プラス」に向けて財務省と懇談 最頻値での議論を

7月には財務省と懇談を行った。次期診療報酬改定を行うにあたっては医療機関経営の「24年度のデータ」で、平均値ではなく「最頻値」を基に議論すべきだとした。その他▽生活習慣病管理料の算定回数を減らさないこと、▽OTC類似薬は保険給付範囲から除外しないこと一等を訴えた。

——調査結果からわかる医療機関の経営悪化 3割の医療機関で原価割れ

確定申告後のデータを使用した「経営実態調査」の結果は、主に内科を中心とした昨年度比の経営状況の悪化を示した。「医療機関における『特定保険医療材料等の価格高騰に関する調査』」では、最大で保険償還価格の約7倍にもなっている材料もあり、約3割の医療機関が「特定保険医療材料において仕入れ額が償還額を上回っている（原価割れ／逆ザヤ）」と回答した。「検体集配有料化に関する影響調査」では、約2割の医療機関が委託先の臨床検査会社から検体集配の「有料化または値上げの提示を受けた」と回答し、いずれの調査結果からも医療機関経営の窮状が窺える。

——10%以上の引き上げ求めて署名1,388筆を提出「院長の給料を半分にした」

国会行動では、調査の結果や医療現場の声をもとに、次期診療報酬改定での10%以上の引き上げを求めた。「地域の医療機関を守るため、緊急財政措置と診療報酬の大幅引き上げを求める医師・歯科医師要請署名」を多くの会員に呼びかけ、12月に1,388筆を提出した。

また、10月には「物価高騰と地域医療」をテーマにした紙上企画「イエローページ」を募集し、74件のコメントが集まった。「院長の給与を半分にした」、「閉院を検討している」といった悲痛な声が届き、医療機関経営の厳しさを表す紙面となった。

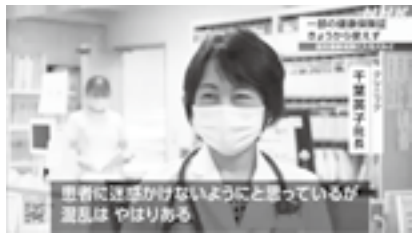
11月には「財政審の社会保障に対する議論に抗議する／医療機関への補助金等による緊急対応、及び2026年度診療報酬改定は診療所・病院一体での対応を強く求める」理事会声明を発表。診療所が多大な利益を上げている訳ではないとし、病院への配分を目的とした診療所の適正化（削減）に抗議した。



厚労省記者クラブで会見

保険証の期限切れが与えた影響 複雑な資格確認方法も周知

8月1日の国保等保険証の期限切れについては、予め会員への周知を行った。NHKが保険証の期限切れを迎えた医療機関の様子として、千葉副理事長を取材。待合室で患者に説明する姿や、「患者に迷惑をかけたくないが、混乱はある」とのコメントが放送された。



12月2日からの社保加入者も含めた保険証の期限切れについては、26年3月末まですべての保険証が利用可能となることを新聞やホームページ等で周知。主な資格確認書類について図を用いて紹介した(右記QRコードからポスターをダウンロード可能)。



「ゼロの会」大阪協会が賛同 医療・健康フェスティバルで多様な企画も

6月にはオンラインイベント「みんなで語ろう窓口負担ゼロ～お金の心配なく医療にかかれる社会へ～」を開催。兵庫県保険医協会が主催し、神奈川・千葉、今回新たに大阪歯科協会が共催した。基調講演は憲法から見た「窓口負担ゼロ」について。また各協会からも報告があり、「ゼロの会」の理念を改めて共有することができた。

10月に市民向けイベント「第26回医療・健康フェスティバル」を開催。市民と対話し、医療費の窓口負担「ゼロの会」のリーフレット・「保険証使い続けたい」署名はがき入りポケットティッシュ約2,700部と、医療問題の啓発を目的とした情報リーフレット約600部の配布を行った。



オンライン診療ビジネスの闇 健康トラブル・医療倫理崩壊の危険性説く

3月には医療政策研究室が頻回の取材や情報提供、継続的な情報連携で協力してきたNHKの記者らにより、自由診療ビジネスの闇を抉る番組が放映。文春オンラインでも取り上げられ、オンライン診療ビジネスの問題点を顕在化させた。政策部長談話では医療法改正で可能になる「オンライン診療受診施設」の開設について、「偽装クリニック」の温床となる可能性がある」と指摘している。



田辺理事長のもと第32期はじまる プラス改定で医療の未来を

6月の第70回定時総会で、田辺由紀夫先生が理事長に再任された。また新たに1名の理事が就任。今年度活動方針は「保険医が安心して『より良い保険医療』を国民に提供できる“未来”を創る—診療報酬大幅引き上げを求める運動の展開を一」を掲げた。



後期高齢者・2割負担『配慮措置』期限延長を 理事会声明を発表

9月には、「後期高齢者・2割負担に対する『配慮措置』期限延長を強く求める」理事会声明を発表した。日本はWHO(世界保健機関)が示す「破滅的医療費支出」に国民の6人に1人が該当する等、窓口負担は低いものではないとし、国民の医療・健康を守るために「配慮措置」の継続を強く求めた。



第640回月例研究会 講演要旨 (2025年12月18日講演)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)・インフルエンザ およびその他の感染症と ワクチンの話題 2025

川崎市健康安全研究所 参与 岡部 信彦氏

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、感染症法の第5類感染症となり、早くも2年半ほどが経過し、社会的にはすっかり落ち着いてきた様相となっています。過剰な怖れを持たなくなったこと自体は喜ばしいことですが、一方では消え去ったかのように感じている方々も多くおられます。この数か月は確かに小さい山での動きとなり、一般の方にとっては身近に重症者を感じることは少なくなり「たいしたことない病気にな

った」と思いがちですが、一定数の入院、ICU入室の方などもおられ、注意しなくてもよい疾患になったとは到底言えない状況です。重症化率などもインフルエンザ(季節性)に比べて高く、インフルエンザ以上の警戒感が必要かと思えます。しかし、診断・治療・予防法については、確実に手の内が増え、これらを上手に使い分けながら説明、あるいは経過を見ていくことが出来るようになってきていると言えるのではないのでしょうか。

そのインフルエンザは、COVID-19の大流行をはさんで疫学状況に大きな変化がみられており「例年では…」という説明が通用しにくくなっています。しかし本質的にインフルエンザ(あるいはインフルエンザウイルス)に大きな変化が現れてきたわけではなく、疫学状況を見ながら、こちらが増えてきた手の内を上手に使いながら対応していくことが基本的なことかと思えます。

一方、マイコプラズマ、RSウイルス、溶連菌感染症、食中毒、梅毒などの感染症が、あたかも舞い戻ってきたかのように再び顔を出しています。これらの感染症の現状について当日お話を申し上げたいと思っておりますが、これらの疾患の流れが掴めるのは、医療機関それぞれから報告(届け出)が行われているからこそですので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

COVID-19の出現によって、新たなワクチン(m-RNAワクチン等)の開発導入が急速に進みましたが、この間、あるいはその後にかけて、ロタウイルスワクチンの定期接種化(2020.10)、HPVワクチンの接種勧奨再開(2022.4)、そして9価ワクチンの定期接種導入(2023.4)、ワクチン接種間隔の変更(2020.10)、5種混合ワクチンの定期接種導入(2024.4)、

肺炎球菌結合型(PCV)15価続いて20価ワクチンの定期接種導入(2024.4/2024.10)、新型コロナウイルスワクチンのB類定期接種化(2024.4)、带状疱疹ワクチンのB類定期接種化と組み換え型ワクチンの導入(2025.4)などが定期接種関連として行われました。また任意接種ではありますが高齢者あるいは妊婦に対するRSウイルスワクチン、経鼻投与インフルエンザ生ワクチン、ダニ媒介性脳炎ワクチン、腸チフスワクチンなどが新たに導入されました。

風疹については5期接種などが導入され風疹対策が強化されてきたところですが、国内での「土着風疹ウイルス」の感染伝播は5年間ないこと、先天性風疹症候群(CRS)は、2021年第2週に1例報告があった以降発生していないこと、などから日本は風疹排除国であることが2025.9にWHOによって認定されたのはビッグニュースで、一線の臨床の先生方、行政の方々、そして一般の方々など多くの方々のご理解とご協力の賜物と、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

講演会当日は、これらCOVID-19、インフルエンザそしてその他の感染症及びワクチンに関する最近の話題についてお話申し上げる予定であります。

研究会案内

※研究会に会場参加の際は、マスク着用・手指の消毒等の感染症対策にご協力ください。また発熱症状等がある場合は参加をお控えください。

※必ず事前にお申込みください。

※新型コロナウイルス感染拡大や天災等により、急遽開催形式を変更または中止させていただく場合がございます。その場合は当会HP「いい医療ドットコム」にて適宜お知らせします。予めご承知おきます。

※協会行事においては、その模様を写真撮影し、記事とともに機関紙に掲載することがありますので予めご了承ください。

神奈川県保険医協会

検索

WEB参加の申込みは、協会HP「いい医療ドットコム」のイベントカレンダーからできます。「神奈川県保険医協会」で検索を！

<div>1月27日(火)午後7時30分～</div> <div>共済セミナー</div> <div>協会の会議室・WEB併用</div> <div>「ドクター」として最低限知っておきたいお金の知識【2026年】</div> <div>講師 東京海上日動あんしん生命保険㈱ 横浜支社 エグゼクティブ・ライフパートナー ロイヤルメンバー 石原 香介氏</div> <div>参加対象 会員（医療機関スタッフ・ご家族も可）</div> <div>参加方法 ①か②いずれか</div> <div>①協会の会議室</div> <div>②WEB参加…下記QRコード もしくは協会HP よりお申込み</div> <div>※「講演会は参加できないが、別日で講師に個別相談したい」といったお声を受け、セミナーに不参加でも無料個別相談が可能です（日程は講師と個別調整となります）。その場合でも、まずはウェビナーから登録をお願いします。個別相談のみお申込みの場合でも、当日セミナーのリマインドメールは送られてきますがその点ご容赦願います。</div> <div>※講演の後日配信はございません。当日リアルタイムでご覧ください。</div> <div>お申込み 共済部・㈱神保協</div>	<div>2026年1月14日(水)午後7時30分～</div> <div>歯援診・口管強の施設基準研修会</div> <div>本研修会は在宅療養支援歯科診療所（歯援診）と口腔管理体制強化加算（口管強）の施設基準対応研修会です。「高齢者の心身の特性（認知症に関する内容を含む）、口腔機能の管理、緊急時対応、歯科疾患の重症化予防に資する継続管理、小児の心身の特性」についての内容に加え、口管強の施設基準の選択式項目にあります「在宅医療または介護に関する研修」、「認知症対応力向上研修」にも対応しております。</div> <div>講師 日本大学歯学部 臨床教授 武内 博朗氏</div> <div>参加対象 歯科会員（医療機関スタッフ・ご家族も可）</div> <div>参加方法 下記QRコードもしくは協会HPよりお申込み</div> <div>①同じメールアドレスで登録できるのは1名様までです。同じ医療機関から複数名でお申込みされる場合はそれぞれ違うアドレスで登録ください。</div> <div>②ご参加の際は、必ずご自身のお名前でご登録された登録確認メールのURLよりご参加をお願いいたします。ご登録氏名と別の方でのご参加、同じURLで複数名のご参加はできません。</div> <div>③本研究会は、保険医協会の会員（会員医療機関スタッフ、会員ご家族も含む）のみがご参加いただけます。</div> <div>④研究会終了後、確認テストを実施いたします。確認テストを受講し、かつ講演を最初から最後までご受講された歯科医師の方（※会員本人に限ります。会員本人ではない勤務医の先生等には発行できないため、あらかじめご容赦ください）に修了証を発行いたします。修了証はお申込み時にご登録のメールアドレスにPDFファイルでお送りする予定です。</div> <div>⑤講演の途中参加、途中退出、確認テストの未回答の場合は、修了証は発行いたしかねます。接続トラブル等の場合であってもご対応いたしかねます。必ずご自身で接続環境など事前にご確認の上、ご参加をお願いいたします。</div> <div>お申込み 歯科研究部</div>
<div>1月23日(金)午後7時～</div> <div>歯科特別研究会</div> <div>本研修会は在宅療養支援歯科診療所（歯援診）と口腔管理体制強化加算（口管強）の施設基準対応研修会です。「高齢者の心身の特性（認知症に関する内容を含む）、口腔機能の管理、緊急時対応、歯科疾患の重症化予防に資する継続管理、小児の心身の特性」についての内容に加え、口管強の施設基準の選択式項目にあります「在宅医療または介護に関する研修」、「認知症対応力向上研修」にも対応しております。</div> <div>講師 日本大学歯学部 臨床教授 武内 博朗氏</div> <div>参加対象 歯科会員（医療機関スタッフ・ご家族も可）</div> <div>参加方法 下記QRコードもしくは協会HPよりお申込み</div> <div>①同じメールアドレスで登録できるのは1名様までです。同じ医療機関から複数名でお申込みされる場合はそれぞれ違うアドレスで登録ください。</div> <div>②ご参加の際は、必ずご自身のお名前でご登録された登録確認メールのURLよりご参加をお願いいたします。ご登録氏名と別の方でのご参加、同じURLで複数名のご参加はできません。</div> <div>③本研究会は、保険医協会の会員（会員医療機関スタッフ、会員ご家族も含む）のみがご参加いただけます。</div> <div>④研究会終了後、確認テストを実施いたします。確認テストを受講し、かつ講演を最初から最後までご受講された歯科医師の方（※会員本人に限ります。会員本人ではない勤務医の先生等には発行できないため、あらかじめご容赦ください）に修了証を発行いたします。修了証はお申込み時にご登録のメールアドレスにPDFファイルでお送りする予定です。</div> <div>⑤講演の途中参加、途中退出、確認テストの未回答の場合は、修了証は発行いたしかねます。接続トラブル等の場合であってもご対応いたしかねます。必ずご自身で接続環境など事前にご確認の上、ご参加をお願いいたします。</div> <div>お申込み 歯科研究部</div>	<div>1月28日(水)午後7時～</div> <div>歯科医療安全対策講習会</div> <div>「外安全」「外感染」「歯初診の施設基準に対応した研修会です。研修内容は、①「偶発症に対する緊急時の対応」、②「医療事故」、③「院内感染防止対策に係る標準予防策及び新興感染症に対する対応策」、④「感染経路別予防策（個人防護具の着脱方法等を含む）」及び新型コロナウイルス感染症等に対する対策・発生動向等に関する研修」です。</div> <div>講師 東京医科歯科大学（現 東京科学大学） 名誉教授 深山 治久氏</div> <div>参加対象 歯科会員（医療機関スタッフ・ご家族も可）</div> <div>参加方法 下記QRコードもしくは協会HPよりお申込み</div> <div>※上記「歯科特別研究会」備考欄の①～⑤と同様です。</div> <div>※医療法で定められた「医療スタッフに対する医療安全管理研修（年に2回受ける必要があります）」にも対応しております。</div> <div>お申込み 歯科研究部</div>
<div>2月9日(月)午後7時30分～</div> <div>鎌倉支部研究会</div> <div>我が国は超高齢社会に突入し、「人生100年時代」とも言われているが、ただ「長生き」を目指すのではなく、心身ともに健康的に過ごせる健康寿命を延ばしていく必要がある。そのためには、口からきちんと食事をとれるように嚥下障害を早期に発見し、進行を防ぐことが重要である。鎌倉市医師会では、「最期まで口から食べる幸せのために多職種ができること」というプロジェクトを立ち上げたので、これまでの活動状況について紹介する。</div> <div>講師 岩武耳鼻咽喉科医院 院長 岩武 博也氏</div> <div>定員 17名</div> <div>後援 (公社)鎌倉市医師会・(一社)逗葉医師会</div> <div>お申込み 鎌倉支部</div>	<div>2月5日(木)午後7時～</div> <div>歯科臨床研究会</div> <div>協会の会議室・WEB併用</div> <div>「口腔内スキャナー（IOS）によるデジタル歯科の現状と未来―歯科教育のデジタル化の現状―」</div> <div>講師 神奈川歯科大学 口腔デジタルサイエンス学分野 主任教授 星 憲幸氏</div> <div>参加対象 会員（医療機関スタッフ・ご家族も可）</div> <div>参加方法 ①か②いずれか</div> <div>①協会の会議室…定員50名</div> <div>②WEB参加…下記QRコード もしくは協会HP よりお申込み</div> <div>※講師は来場予定です。</div> <div>お申込み 歯科研究部</div>

会場参加のお申込み・お問合せは、協会事務局(TEL:045-313-2111)までご連絡ください